

「教員としての子ども観・教育観についての考察」 (講習) の成果と課題

岐阜大学教職大学院 今井 恭 博

1 本講習の実施に当たって

(1) 本講習の目的

本稿で取り上げる講習は、文部科学省の教員免許状更新講習開設認定基準の必修領域「教育の最新情報」のうち、「① 教職についての省察」で示された2項目の中の「B 教員としての子ども観・教育観についての省察」(以下、「講習B」という。)に当たる部分である。

この講習Bの内容は、「子ども観・教育観の省察」、「倫理観、遵法精神、教育的愛情その他教員に対する社会的要請の強い事柄の省察」である。言うなれば、「教職」ということについてあらためて自己自身を振り返り、「専門職としての教員の役割」を省察し、「リニューアル」していくことを目指すものである。

(2) 本講習のテキスト

本教員免許状更新講習では、テキストとして、『教職リニューアルー「教育の最新事情」を効果的に学ぶためにー』(ミネルヴァ書房、2009年、全199頁)が事前に作成された。その中で、講習Bの「教員としての子ども観・教育観についての省察」については26頁が割り当てられたので、右記のように構成した。

このうち、1の「省察」に関すること及び全体のまとめに当たる5の「教職としての教員の役割」は大学・大学院の研究者教員に、2及び3の(1)は教職大学院の実務家教員に執筆を担当してもらい、「理論的な側面」を重視した。また、3の(2)～(4)及び4については、学校現場の経験豊かな岐

第二講 教員としての子ども観・教育観についての省察

1 教師にとっての『省察』とは

- (1) 教師の専門性を支える「省察」
- (2) 子どもを鏡として、自らの教育観や授業観を振り返る
- (3) 教師の省察を導く実践記録の在り方
- (4) 省察における協働の重要性

2 教員に求められる資質力量 一中教審答中等よりー

3 教員としての『子ども観・教育観』の省察

- (1) 学習指導要領改訂と教員の「子ども観・教育観」
- (2) 「確かな学力を育てる」という立場からの「子ども観・教育観」
- (3) 「子どもの心を育てる」という立場からの「子ども観・教育観」
- (4) 保護者の「子ども観・教育観」と教員の「子ども観・教育観」

4 教員に求められる倫理観と教育的情熱・愛情

- (1) 教員に求められる高い倫理観
- (2) 教員を取り巻く環境の変化

5 専門職としての教員の役割

- (1) 現代の社会変動と「専門職」像の転換
- (2) 学習指導要領改訂への視点
- (3) 「学力を育てる」「心を育てる」という観点との関わり
- (4) 保護者の教育要求、社会要請との関わり
- ⑤ 「教職の高度化」に向けて

阜県教育委員会事務局教員系事務職員に執筆を依頼し、「実践的な側面」を重視するという立場で全体を構成した。

(3) 本講習のシラバス

講習Bの「シラバス」は、次の通りである。

講習名	「教員としての子ども観・教育観についての考察」
講習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども観、教育観についての省察 ○ 教育的愛情、倫理観、遵法精神その他教員に対する社会的要請の強い事柄の省察
講習の到達目標（評価指標）	<p>① 自分の「子ども観」「教育観」「倫理観等」（以下、「子ども観・教育観等」という。）を見直す視点を持つ。</p> <p>② 「専門職としての教員の役割」という立場から、「子ども観・教育観等」を観点（事例）を通して省察する。</p> <p>③ 教員に対する社会の期待（教育的愛情、教育指導力、総合的な人間力）に応える「子ども観・教育観等」を持つ。</p>
講習の方法・内容	<p>1 「省察」ということについて、その立場を明確にする。（共通）</p> <p>※ テキストの論調等から、「自己の考え方や在り方を省察する」ということの意味を明らかにする。</p> <p>2 「社会の変化」に伴う「求められる教員像」という立場から、自己の「子ども観・教育観等」を見つめ直す視点を持つ。（共通）</p> <p>○ 2006年 中央教育審議会答申 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」 「I－1 これからの社会と教員に求められる資質能力」中の(2)「教員に求められる資質能力」</p> <p>※ テキストの解説文等から、この内容を紹介・解説し、自己の「子ども観・教育観等」を見つめ直す視点を明らかにする。</p> <p>3 教員の「子ども観・教育観」を、観点を通して省察する。（選択）</p> <p>※ 以下の項目内容から選択して取り上げる。講師によって事例の差し替えは可とする。</p> <p>○ 観点1 学習指導要領改訂と教員の「子ども観・教育観」</p> <p>※ 「テキスト」に記載された論調等を手掛かりとして、次のようなことを取り上げる。（以下同じ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この論調に対して、どういう感想を持ったか。 ・学習指導要領改訂と自分の「子ども観・教育観」の関わりをどう捉えているか。 ・論調の中にある「教育を全体像で捉える」「不易と流行」ということについてどう捉えるか。 <p>○ 観点2 「確かな学力を育てる」という立場からの「子ども観・教育観」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この論調に対して、どういう感想を持ったか。 ・「授業観が変わる」ということをどう捉えるか。 ・「確かな学力を育てる」という立場から、「教員の指導性」ということをどう捉えるか。 ・「子どもの可能性」ということについて、どういう捉え方をするか。 <p>○ 観点3 「子どもの心を育てる」という立場からの「子ども観・教育観」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この論調に対して、どういう感想を持ったか。 ・「子どもが変わる」ということをどう捉えるか。 ・「子どもの心を育てる」という立場から、「教員の指導性」ということをどう捉えるか。 ・「子どもの可能性」ということについて、どういう捉え方をするか。 <p>○ 観点4 保護者の「子ども観・教育観」と教員の「子ども観・教育観」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教員の「子ども観・教育観」が対立するということが、現実にあるか。 ・保護者と教員の「子ども観・教育観」が対立した場合の対応は、どうあったらよいか。

4 「教員の倫理観等社会的に要請の高い事項」を省察する。(共通)

※ 「テキスト」に記載された論調等を手掛かりとして、次のようなことを取り上げる。

- ・データ「教育職員に係る懲戒処分等の状況」「教育職員に係る分限処分等の状況」を見て、どんな感想を持ったか。
- ・教員の非行、不祥事に対して、社会はどう見ていると捉えるか。
- ・社会は教員に対して、「社会人・職業人」としてどういう期待をしていると捉えるか。

5 教員としての「子ども観・教育観等」について、まとめる。(共通)

※ 「テキスト」に記載された論調等を手掛かりとして、次のようなことを取り上げる。

- 現代の社会変動と「専門職」像の転換
- 学習指導要領改訂への視点
- 「学力を育てる」「心を育てる」観点との関わり
- 保護者の教育要求、社会的要請との関わり
- 「教職の高度化」に向けて

※ 「自ら自己啓発する教員へ」の投げかけを大切にしていってほしい。

(4) 講習 B の講師スタッフと各講師のシラバスの扱い

講習 B を担当する講師スタッフは、大学・大学院の研究者教員 3 人、教職大学院の実務家教員 1 人、現職の高等学校長 1 人、小学校長 1 人、教育委員会事務局教員系事務職員 2 人の計 8 人とし、15会場を手分けして担当した。

各講師にあっては、上記シラバスに沿う形で、シラバス中の 1、2 及び 5 は「共通」で扱い、3、4 については、講習 B の趣旨及び受講対象者に合わせて、テキストの活用あるいは自前で用意した内容を「選択」して扱うこととした。

2 本講習後に実施された試験問題の解答からの若干の考察

今年度の教員免許状更新講習においては、2 日間 8 講座の講習の後、修了認定のための試験が実施された。試験の実施方法は、

- 全 8 講座の各取りまとめ責任者が、その講座について筆記解答式の試験問題を 5 問ずつ作成する。その上で、教員免許状更新講習実施本部が、各会場ごとに、8 講座中の 2 講座を選択し、その講座の試験問題から各 1 問を抽出し、「2 問の試験問題用紙」を作成する。受講者は、規定時間内で、その 2 問の筆記解答式の試験問題に取り組む。採点は、試験問題を作成した取りまとめ責任者が、評価基準を定めて行う。

というものであるが、講座 B の問題が出されたのは、3 会場であった。

本稿では、そのうちの、「A 大学会場 受講者数 68 人 受講対象者：中学校教員」を取り上げて、以下、試験問題と解答の状況を掲載する。ここでこれを取り上げるのは、「講習 B の担当講師 8 人の中で、この担当講師が、受講者の授業評価が最も高かった」という結果だったということと、「現職教員の現在における意識の状況」、「この講習の成果」が端的に出ているのではないかと思ったからである。

(1) この会場での講習 B の試験問題

この会場での講習 B の試験問題は、次の通りである。

■ 「教員に求められる資質能力」をあなた流で 3 点で整理し、それぞれについて簡単に解説してください。

(2) 受講者の解答の状況

この設問に対して受講者が解答で挙げた「3項目」を整理すると以下のものであった。※整理は筆者による。

番	1	2	3
1	法規法令の遵守	生きる力の育成	保護者・地域との連携
2	説明責任能力	教科の指導力	教師の生きる力
3	教育的情熱	授業力	保護者・地域との連携
4	教育的情熱	社会の変化への対応力	コミュニケーション能力
5	教育的情熱	専門職としての確かな力量	総合的な人間力
6	教育観を再考する能力	社会の変化についていける能力	指導力を上げる能力
7	授業力（教科指導力）	共感・受容力	事務処理能力
8	教科の専門性	人間関係を築く能力	社会や時代の変化を伝える能力
9	専門性を追求する力	生徒の抱える問題を捉え支援する力	組織の一員として役割を果たす力
10	教育に対する強い情熱	専門職としての確かな力量	人間としての総合力
11	自己研鑽の継続力	生徒理解力	コミュニケーション能力
12	協調性（コミュニケーション能力）	責任感	指導力
13	人間性	熱意	指導力
14	教育に対する情熱	教師としての指導力	教師としての人間性
15	授業力	学級経営力	社会性
16	教職に対する情熱	専門的な知識・技能	人間力
17	目的意識と見通しを持てる力	受容できる度量の大きさ	児童・生徒理解の力
18	愛を持って動く	責任を持つ	実行力
19	学習指導力	生徒指導力	学級経営力
20	人間総合力	専門の指導力	人間関係能力
21	総合的な人間力	教員としての人間性	教育にかける情熱と愛情
22	総合的な人間力	情熱	スキル
23	子ども理解力	授業づくりの力	学級経営力
24	教育者としての熱い情熱	専門性を身に付けている	人権感覚を身に付けている
25	情熱を持って子どもに接する	考査し振り返る	学ぼうとする謙虚さ
26	愛情にあふれ情熱がある	自分を振り返る謙虚さがある	人間関係形成能力がある
27	人間性	教育者としての専門性	教育に対する情熱
28	子どもに対する愛情	厳しさ	教科の専門的知識
29	児童生徒に対する情熱、使命感	仲間とやり遂げようとする協調性	専門性を高める努力
30	人間力	情熱	授業力
31	分かりやすい授業を行うこと	研修を行うこと	他人の言葉に耳が傾けられること
32	児童生徒に対する情熱、使命感	高い専門性	柔軟なものの考え方
33	人間力	情熱	確かな力量
34	社会の変化に応じ刷新していく力	家庭・地域との連携	支援を要する子どもへの対応力
35	分かり合える人間関係づくり	専門的な知識・技能	地域・保護者との人間関係
36	教育に関する燃えるような使命感	専門職としての確かな指導力	総合的な人間力
37	高い専門性を発揮できる力	将来の社会を見通して指導できる力	自己省察力
38	人間力	探求力	子どもを愛する心
39	授業力も含む教科等の専門性・指導力	社会情勢の急激な変化に対する 適応力・対応力	複雑化、多様化する課題等に対する危機管理能力
40	熱い情熱	高い専門性	ユーモアがある
41	社会の状況を的確に判断する力	生徒観を磨く力	専門性を高める力
42	一般常識を持っていること	子どもの思いを感じ取る感性・五感	子どもとの信頼関係をつくる力
43	児童生徒の心を引きつける力	何でもやさしく受け止められる姿勢	いい加減さを容認するゆとり
44	専門職として子どもに力を付ける力	自分の姿勢や価値観の見直し	教師、人としての省察
45	探求心	コミュニケーション力	自己管理能力
46	教育に対する情熱	指導力	人間性
47	人間としての魅力	リーダー力	授業力
48	教育への情熱 子どもへの愛情	総合的な人間力	人との関係の中で学ぶ
49	保護者とのコミュニケーション力	自分を見つめ直す力	人間関係を培う力
50	コミュニケーション能力	人間関係形成力	教科指導力

51	コミュニケーション能力	組織の一員としての人間関係の構築	判断力
52	授業力	学級経営力	学校の組織の一員として活動できる力
53	専門性	思い（情熱）	人間性
54	PDCA の力	児童生徒への信頼を持つこと	協力し合い組織的対応ができること
55	倫理観、常識を持って生徒に接する	コミュニケーション能力	<u>変化に対応する力</u>
56	授業のプロとしての知的好奇心	コミュニケーション力	障害を持つ子どもへの愛ある教師
57	人間力	教育に対する情熱	指導力
58	様々な状況に対応する力	専門職としての指導力	人間関係を築いていく力
59	コミュニケーション能力	自己研修に努めること	情熱を失わないこと
60	学習指導力	生徒指導力	保護者、地域との連携力
61	<u>社会や子どもの変化に的確に対応する力</u>	生徒への愛情と情熱	人間の人格を形成する専門職としての力
62	教師としての使命感、責任感	学習指導要領を理解しバランス感覚を持って指導に当たる力	生徒や保護者の意識や願いを掴み指導に生かす力
63	教科の専門性に根ざす指導力	教育に対する情熱、熱意	人間関係能力（コミュニケーション力）
64	人間関係をつくっていく力	学習指導要領を理解した指導力	自信を持って集団の中で学べる環境作り
65	常に学び続けること、努力すること	子どもを心から信頼すること	子どもの能力を伸ばすこと
66	教育に対する情熱	指導力	人間性
67	地域人材活用能力	<u>社会の変化に対応し新しいことに対応する能力</u>	ストレスコントロール能力
68	学習指導能力	生徒指導力	保護者との協同的な構え

（3） 解答の結果から

「教員に求められる資質能力」については、「中央教育審議会」また「教育職員養成審議会」が、これまでに幾つかの「答申」を出している。この答申は、その時代その時代の社会の要請や願いを踏まえ、それを集約する形でなされている。直近のものとしては、平成18年7月の「今後の教員養成・免許制度の在り方について」があるが、そこにおいては、平成17年10月の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」で「優れた教師の条件」として挙げられている3つの要素、

1 教職に対する強い情熱 2 教育の専門家としての確かな力量 3 総合的な人間力

と、平成9年の教育職員養成審議会第一次答申中「教員に求められる資質能力」で挙げられている3つの要素、

① いつの時代にも求められる資質能力 ② 今後特に求められる資質能力 ③ 得意分野を持つ個性豊かな教員

を併記している。内容は多岐にわたるし括り方に差異はあるものの、「教員に求められる資質能力」としてオーソライズされたものと解釈できる。

68人全員の解答を見てみると、1、2、3という視点から見ても、①、②、③という視点から見ても、一定以上の評価ができると考える。解答された3項目は、全員が1、2、3、①、②、③から複数項目を挙げている。

そんな中で、筆者が特に注目したのは、

○ 「社会の変化に対応して教育の在り方や内容を捉える能力」に着目して、それを挙げた人である。

教育職員養成審議会答申にあった「② 今後教員に求められる資質能力」は、「地球的な視野に立って行動するための資質能力」「変化の時代に生きる社会人に求められる資質能力」「教員の職務から必然的に求められる資質能力」と広汎にわたるが、直近の平成18年7月中央教育審議会答申をよくよく読んでみると、

単なる羅列、並列でなく、「これから先を見据えた社会の変化への対応に関わること」をことのほか強調する表現に変化しているのである。

そんな視点に立ち、前掲の表中では、「社会の変化への対応」を正面から取り上げたものに____線を付してみた。

____線を付した人数は、68人中10人である。この数値をどう見るかは、様々な見方があると思うが、「これからの時代の教育」ということを踏まえたとき、これらは、「教員に必要な資質能力」として必要不可欠の要素ではないかと筆者は捉えている。

試験問題の解答の中に、次のようなものがあった。

現代、社会が大きく変わり、社会に求められるものが変化してきた。「知識基盤社会」とりわけ科学技術の高度化、グローバル化、情報化が進む中、私たちも、新しいものを取り入れ、未来を見据えて、現代及び未来の子どもたちに沿った教育について研修を重ね、考えていかなければならない。

しかし、流行ばかりにとらわれてはいけない。不易なものとの見極めが必要である。(中略)

「知識基盤社会」という言葉をいつも頭に置いて、教育に携わりたい。

こういった解答が得られたことは、この講習の大きな成果であると捉えるが、如何であろうか。

3 まとめとして

「新しい時代の、新しい学校づくり」…。今、教育（学校）関係者に投げかけられている大きな課題である。

○ 「仕組み」的には、「学校（教員）自己完結型の学校教育」から、「地域に信頼される学校教育」へ

○ 「内容」的には、「知識基盤社会に確実に対応できる学校教育」へ

という大きな流れの中で、「教員自身が変わること」が強く求められている。

そういった立場からすると、「不適格教員の排除」という視点から出発しかけた「教員免許状更新講習」に対して、文部科学省はその「目的」として、

◇ 教員免許更新制は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。

と言い切り、「本来的なあるべき姿」に立ち返って実施された意味は大きいと思っている。

学校教育の「内容」的な側面においては、率直なところ、日本の教育は、PISA 調査で日本を追い越していった諸国に比して、10年の遅れをとったと思っている。これは、教育学者の責任、行政の責任が極めて大きい。10年前に、いやせめて「学びのすすめ」が出された平成14年あたりに、学者なり行政なりが、「知識基盤社会」ということをもっとしっかりと指摘していてくれたら…。と思う。

ただ、これは…、学者、行政だけでなく、私たち学校現場の教員も、「教育についての先を見る目」、「未来を予測して現在の教育課題を明らかにする目」を持たなければならなかったのではないかな…。小中学校教育に関わり、教育行政に関わってきた筆者自身の強い反省である。

実際に受講された方々の反応は、「受講することによって、これからの教育を見る視野が確実に広がった。」というものが多かった。これは、教員一人一人が持つ「自己自身の陶冶性の高まり」故と評価したい。そういった立場からも、今回の教員免許状更新講習の意味は大きかったし、これからの意味も大きいのではないかと考える。

最後に、私が感じた課題を一つだけ挙げておきたい。

● 受講者の「ニーズ」に合うものを扱うということと、「ニーズ」としては感じ取られていないが未来を見据えて極めて重要なことを敢えて積極的に扱うということとの「兼ね合い」の問題である。これは、講習の講師スタッフ及びその組み方というところにも波及する課題だと考えている